

国立国語研究所学術情報リポジトリ

中学校の漢字学習指導の実態に関する質問紙調査： 中間報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所国語教育研究室 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002392

099
121
1000558203

16, 116

中学校の漢字学習指導の実態に関する

質問紙調査 中間報告

1967年11月

国立国語研究所

国語教育研究室

(C) 質問の内容および結果の概要

この調査にふくめた質問事項およびその結果のあらましは、次ページ以降に示すとおりである。そして、これらについての記述は次のようになっている。

- ① 質問の内容およびその配列については、部分的に省略したところもあるが、原則として実際の調査に従った。
- ② 各質問事項のあとに二つずつ示した数字はいずれも百分率（項目によっては平均値）で、それぞれ前者はA地域について、後者はB地域についてのものを表わしている。
- ③ 項目によっては、二つ以上の選択肢に○印がつくものがあり、この場合には、当然ながら、各パーセンテージの和が100をこえている。
- ④ 項目によっては、各パーセンテージの和が100になってよいはずであるのに、100に満たないものがある。この場合の差は「無答」による。

なお、この調査についての最終報告は、当研究所報告書において行なう予定である。

この調査を行なうにあたって、直接回答者として御協力くださった643名の先生方ならびに回答者推薦の方をおとりくださった各都道府県教育委員会のかたがたの御厚意に深く謝意を表したい。

また、つぎのかたがたには、種々の面で格別のご協力お力添えをたまわった。ここに記して厚く謝意を表する次第である。

飯塚正八	青森県教育委員会指導課長
伊藤秀雄	千葉県教育委員会指導課長
岩淵寛二	青森県指導主事
大山正幸	神奈川県中学校国語教育研究会長
寒川英希	文部省特殊教育課長
鈴木康之	東京成徳短期大学専任講師
須藤久幸	神奈川県指導主事
田島 治	富山県砺波市立太田小学校 — (当時、富山県派遣国立国語研究所留学生)
戸川 翔	千葉県指導主事

I 学校の環境と国語科学習指導

- a. あなたの現在の学校の地域環境 (二つにまたがっている場合は、その両方をかこむ)
- | | | |
|-----------------------|---------------------|--------------------|
| 1. 住宅市街 18.8 (28.2) | 2. 商業市街 9.2 (17.0) | 3. 工業市街 4.3 (6.8) |
| 4. 鉱業市街 0 (1.5) | 5. その他の市街 3.2 (6.8) | 6. 小都市 1.1 (17.5) |
| 7. 都市近郊農村 15.8 (17.5) | 8. 普通農村 24.7 (18.0) | 9. 農山村 19.0 (14.1) |
| 10. 農漁村 12.6 (5.3) | 11. 渔村 4.1 (0.5) | 12. 鉱山 0.2 (0.5) |
| 13. 山村 3.0 (1.9) | 14. その他 2.7 (1.9) | |
- b. あなたの現在の学校の全学級数 12.5 (19.8) 学級
- c. あなたの現在の学校の国語科教員数 1. 専任者 2.2 (3.5) 名 2. 兼任者 1.7 (1.7) 名
- d. あなたの現在の学校の毛筆習字は
- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1. 国語科教員全員で指導 29.7 (23.3) | 2. 国語科教員のうちの一部で指導 43.5 (56.3) |
| 3. 国語科以外の教員が指導 23.8 (24.8) | 4. 特別の非常勤講師を依頼 1.1 (1.9) |
| 5. 校長または校務主任が指導 6.9 (2.9) | |
- e. あなた自身の現在の国語科の受けもち
- | | | |
|------------------|---------------|--------------------------|
| 1年生 1.2 (1.3) 学級 | 43.7 (53.8) 名 | 総時間数
1週 1.5 (21.0) 時間 |
| 2年生 1.2 (1.4) 学級 | 43.3 (55.7) 名 | |
| 3年生 1.6 (2.2) 学級 | 53.8 (91.8) 名 | |
- f. あなた自身の、その他(已以外)の校務分掌
- (校務主任、図書館主任、学年主任、PTA会計係、研究指導主任、国語科主任……いろいろで
あるが、全体を通じて、何か一つという場合はまれで、1人がス~4種の已以外の校務を分掌し
ている例が大勢を占めている。)

II 漢字学習指導の方法

- a. 教科書による、ふつうの国語の授業における漢字学習指導の過程

教科書による、ふつうの国語の授業における漢字学習指導の過程の例として、つぎのようなものを考えました。あなたの場合、実際にはこれがどうなっているでしょうか。例にならってお書きください。

- (例)
- ① 教科書の読みをとおしての正確な音声化 (A)
② 文章中の文脈的理解 (B)
③ 挿出しての語句単位での理解 (C)
④ 分解による文字単位での理解 (D)
⑤ 応用的、発展的理 解と練習 (E)
⑥ 練習による態度化 (F)

(記入欄) /

上の例をごらんになって、あなたの場合は、つぎのどれでしょうか。

1. 内容、順序とも例と同じ 54.7 (53.4)

口、内容はほぼ同じになるが、順序がちがう 35.7 (35.4)

この場合は、A, B……の記号で、その順序を下にお書きください。

(A 地域、B 地域の総合で多かったもの 1~3 位までを示すと、ACDBEF [9.2%], ACB
DEF [5.9%], ADCBEF [1.9%])

ハ、例とは違った指導過程をとっている 1.8 (11.2)

この場合は、(記入欄) 2 にお書きください。

①(記入欄)	イにも口にも属さない指導過程をとっているとしてこの欄に回答したものは、A地域で約8%，B地域で11.2%であった。
②(記入欄)	そして、その中の大半は、例 ④⑤⑥⑦⑧の中のどれかをとばした方式または、多少変形させたもので止められている。
③(記入欄)	その他のものとしては、「単元にはいるまえに、主要漢字について家庭学習として調べさせる」をトップに位置づけているもの、「ノート検査」「テストによる定着度の評価」を最後に加えたもの、その他などがある。
④(記入欄)	
⑤(記入欄)	
⑥(記入欄)	
○(記入欄)	

b 教科書以外の漢字のとりたて指導

1. 教科書の詮解の場合に指導する以外に、つぎのような指導をしているでしょうか。

1. 主として教科書で習ったものの練習学習

- (i) その教科書なり、単元なりが終ったところでの練習学習 75.7 (80.6)
- (ii) 1週間に何回かの特別の時間をきめての練習学習 13.3 (13.6)
- (iii) あるときまとめて(期末、その他)練習学習 15.8 (20.4)

2. 教科書と関係のない、ワークブック、テストブックなどを使っての練習学習

- (i) している 54.0 (50.0) (ii) していない 39.6 (44.2)

3. 自分でくみたてたり、あるいは、何かの参考書を利用して作ったりの、漢字についての知識や技能を増すための特別なレッスン

- (i) している 34.8 (50.5) (ii) していない 49.9 (44.7)

2. テスト

1. 漢字のテストは、どういう時機に行なっているでしょうか。

- (i) 毎週行なっている 20.4 (16.5)
- (ii) 小単元が終ったところで行なっている 43.0 (43.7)
- (iii) 単元の終ったところで行なっている 21.5 (25.7)
- (iv) その他の 25.4 (34.5)

2. テストに出す漢字のソース

- (i) 教科書に提出されている漢字の中から 86.7 (85.9)
- (ii) 教科書以外の教材の中から 11.0 (9.2)
- (iii) 当用漢字の中から 19.9 (26.7)
- (iv) 当用漢字以外の漢字から 3.7 (1.5)
- (v) その他の 5.3 (1.2)

3. 答案に、略字・旧字体の漢字が出てきた場合の処理はどうしていますか。

- (i) 略字 (A地域、B地域ともに、「採点する場合は誤答として処理するが、そのとき、正字) を添書するか、あるいは事後に指導するなどしている」というのがほとんどである。)
- (ii) 旧字体 (A地域、B地域ともに、大別して、
 - ① 正答として許容するが、あとで新旧字体について説明する。)
 - ② 誤答として処理し、あとで全体指導を行なう。
のいずれかに属する仕方で処理されている。①②は約半々。)

III 漢字学習指導の内容

a. 熟語の指導の場合、その語を構成している漢字の1字/字の意味を指導しているでしょうか。

1. 1字/字の意味の指導が、その語の理解に必要と判断したとき指導している。 68.0 (69.4)

2. 語としては指導しているが、1字/字の意味には含まれない。 6.6 (1.9)

3. その熟語が音読みの熟語で、1字/字の意味の指導がその語の理解に必要と判断したときに指導している 23.6 (32.5)

4. 指導するかしないかは、その時の事情による。 13.3 (7.3)

5. その他の 4.6 (2.3)

8. 当用漢字の指導で、音訓表に示された以外のよみにふれることはあるでしょうか。

1. ふれたことがある。 44.2 (69.4)

あるとすれば、それは、どんな漢字の場合でしたか。できれば、それらの漢字をいくつかお示しください。

(熟 さかな・父 とう・母 かあ・尊 とうとイ・入 はいル・汚 よごス・歡 よろシビ・達 たちだち
縉 ちよ・私 わたし・懷 ふところ・なつか シイ・体 からだ・嚴 きびシイ・鮮 あざやか
風情 ふぜい・大人 おとな-----その他 (以上、B 地域での例))

また、その理由としては、どんなことが考えられるでしょうか。

B 地域の回答について、おもなものを 2~3 示すと

- ① 熟語の意味の指導のとき訓を使うと便利なので、しぜん表外訓にもふれる。
- ② 文学作品を読むとき、音訓表以外のよみかたをおぼえておく必要がある。
- ③ 日常生活上よく目にふれるものは覚えさせておいた方がよいと思うから。

などがあげられている。

2. ふれたことがあるように思う 40.3 (20.9)

3. ふれたことはない 14.2 (8.7)

C 教科書による授業の中で、取り出して指導している漢字はどれでしょうか。

1. 新出漢字の全部 5.2 (49.0)

2. 新出漢字のうち、生徒にとって抵抗が大きいと思われるもの 33.9 (45.6)

3. 既習漢字のうち、習得率の低いもの 50.8 (57.8)

4. その他の 6.6 (12.6)

d 上記、C の場合、音訓についてはどうなっているでしょうか。

1. 教科書の文脈でのよみだけを指導している。 5.3 (1.9)

2. 教科書の文脈でのよみが音だけである場合、なるべくその漢字の訓(それがあれば)も指導するようしている。 82.6 (92.3)

3. 教科書の文脈でのよみが訓だけの場合、なるべくその漢字の音(それがあれば)も指導するようしている。 66.6 (83.0)

4. 教科書の文脈でのよみが訓であれば、音にふれることはほとんどない。 1.4 (0.5)

5. その他の 8.0 (7.8)

e 筆順について、なにか指導しなければならないようなことがあったでしょうか。

1. あった 79.6 (87.9)

あったとすれば、それは筆順のどういう点についてでしょうか。なるべく具体的にお示しください。

(B 地域における、上位 15 位までの指導字例
(必、飛、右、左、馬、有、方、女、田、肅、医、耳、九、歎、門)

2. なかった 1.8 (1.7)

f 作文の中で漢字を指導しているでしょうか。

1. 事後処理として、誤字、誤用等の漢字を訂正して返している。 8.4 (85.3)

i. かならず 30.0 (21.8) ii. だいたい 42.1 (41.7) iii. その時の事情による 15.3 (21.8)

2. 知っている漢字は、なるべく多く使って書くように指導している。 46.9 (50.0)

3. 漢字を使うときは、たしかに知っている字を使うように指導している。 12.6 (9.2)

4. 書くときに辞書を使わせて、自信のない字は確かめてから書くように指導している。 31.1 (38.3)

5. 書く意欲をそぐので、作文での漢字指導はなるべくしないことにしている。 7.8 (8.3)

6. その他の 6.6 (24.3)

g ふだん、漢字を正しく書くよう、その態度化について、どんな指導をしていますか。

1. 書くときは正しい漢字を書くよう心掛けさせている。 46.7 (43.2)

2. 字画をきちんと書くよう指導している。 31.6 (42.7)

3. 漢和辞典・国語辞典等をおくうがらずにひいてみる習慣をつけるように指導している。

59.0 (64.6)

4. 自信のない字は、知っている人に聞くなり、辞書でひくなり、なるべく確かめてから書くように指導している。 22.7 (27.7)

5. ノート検査によって、正しく書くことの態度化をはかっている。 41.0 (41.3)

6. その他の 久6 (13.1)

7. 部首の知識を利用して漢字の指導をなさっているでしょうか。

1. した 83.7 (89.3) 2. しなかった 14.4 (9.7)

8. 部首についてなにか指導をなさったでしょうか。

1. まとめては行なっていないが、必要に応じてふれてきた。 61.1 (54.9)

2. 漢和辞典を利用して指導してきた。 35.0 (39.8)

3. 生徒の自発学習にまかしててきた。 41 (2.4)

4. その他の 6.9 (16.5)

9. 熟語の語構成(たとえば、登山・下山 春雨・春風 先端・道路……等の語の中にみられる構成上の共通点や相違点)についての指導はどうなさっているでしょうか。

1. 計画的に指導している。 5.5 (18.9)

2. 必要に応じて、そのときどきに指導してきた。 89.2 (72.2)

3. それにはふれていない。 3.0 (0.5)

4. その他の 4.3 (13.6)

10. 他教科へのサービス(たとえば「この漢字は理科の用語に使われる字だからよく教えておいてやろう」というようなこと)として指導したりすることがありますか。

1. サービスを意識して指導したことがあり 11.2 (20.9), その対象はおもに 科 科である(A・B両地域とも、社会科・理科が圧倒的に多い)

2. その事実はあるが、とくにどの教科ということはない。 43.5 (44.7)

3. 他教科へのサービスを意識して指導したことはない。 43.9 (32.5)

4. その他の 3.7 (5.3)

11. あなたの学校の国語科以外の教科で、漢字の学習指導が行なわれているでしょうか。

1. 指導しているということを他教科の人などから聞いたこと(見たこと)がある。 28.8 (40.3)
(A・B両地域とも、社会科・理科が他を引きはなして多い)

2. 指導しているかどうかわからない。 22.2 (14.6)

3. 指導していないらしい。 32.8 (34.0)

4. その他の 9.4 (14.1)

IV その他の指導

12. 辞書指導(漢和辞典について)

1. あなたは、今年度になってから、漢和辞典の使いかたについて指導されたでしょうか。

1. 指導した 60.6 (64.6)

2. 指導の必要を認めているがまだやっていない。 7.8 (3.9)

3. 使用の仕方について生徒がすでに知っていたので指導の必要がなかった。 26.8 (26.2)

4. その他の 5.7 (5.3)

2. 漢和辞典を利用して授業をなさっているでしょうか。

1. してきた 52.2 (60.7) その場合、どんなふうに利用されましたか。

B 地域での例

① 部首、熟語の指導のとき

② 新出漢字や難解語句を、授業中辞書を利用して調べさせる。

③ 学習時・つねに持たせて。必要に応じて

その他など

2. してこなかつた。 35.7 (26.7)

3. その他の 9.8 (8.3)

3. 漢和辞典を生徒にどのように使わせていますか。

イ 授業中自由に使わせている。 5ヶ所 (51.5)

ロ 休み時間や放課後等に使わせている。 26 (8.7)

ハ 家で予習、復習のときに使わせている。 56.1 (6ヶ所)

ニ その他の 12.1 (13.1)

b 副教科書・ワークブック

1. 漢字学習中心の副教科書、ワークブック等を使わせていますか。

イ 使わせている 39.1 (3ヶ所) ロ 使わせていない 54.7 (55.3)

2. 漢字学習をふくむ副教科書、ワークブック等を使わせていますか。

イ 使わせている 42.3 (48.1) ロ 使わせていない 43.9 (3ヶ所)

c 家庭学習

1. 漢字学習を宿題として家でやらせていますか。

イ やらせている 82.4 (9人.3) ロ やらせていない 16.9 (6.3)

2. やらせている場合、それは主として漢字学習のどういうことについてですか。

イ 書きの練習 41.6 (46.6) ロ 難語句のよみや意味を調べる一環として 51.3 (61.7)

ハ その他 11.2 (22.3)

3. 特別に行なっている漢字の学習指導、漢字の学習指導上、なにか特別に行なっていることがあるでしょうか。ありましたら、それをお書きください。

イ 先生個人として

B 地域についてのおもなものの

- ① テスト、ドリルの実施(朝自習、国語の時間、放課後、補欠授業等を利用して)
- ② 指導のための各種の調査、研究、研修
- ③ 一字一字についての字源的、解字的指導
- ④ 語句ノートによる指導
- ⑤ 熟語の語構成についての指導。その他。

ロ 学校、または地域として

B 地域についてのおもなものの

- ① 漢字テストの定期的な実施
- ② 朝の自習時を利用した、漢字についてのドリル学習
- ③ 進級式の漢字力検定試験制度の採用
- ④ 市販または自作の漢字練習帳の使用。その他。

――この事項では、学校としてなのか、地域としてなのかが明らかでないものがあるが、記述内容からみて、学校として、というのがほとんどであると思われる。――

▽ 漢字学習指導に対するあなたのご意見

a. 中学校卒業までに身につけさせたい漢字力は?

1. 別表外当用漢字(969字)について

イ よみ、かきともに完全に身につけさせたい。 46.5 (43.2)

ロ よみだけは 完全に身につけさせたい。 49.2 (5人0)

ハ その他の 5.5 (10.2)

2. 当用漢字外の漢字について

イ ルビつきで出してあればよい。とくに指導する必要はない。 45.8 (54.4)

ロ 必要のある漢字については指導しなければならない。 45.1 (36.4) (だいたい 289.2 (211.2)
字ぐらい)

ハ その他の 3.9 (10.2)

b. 漢字学習指導のあらべき姿について、あなたはどうお考えでしょうか。 400 字以内ぐらいでお書きください。

1. B 地域についてのおもな意見。

)

- ① 一字一字についての形・音・義をおさえた指導がたいせつだ。
- ② 熟語・類義語・反対語・語構成等を通じての指導が重要。
- ③ ドリル学習をもっと重視するべきだ。
- ④ 漢字指導には全職員の指導が必要だ。
- ⑤ 国語科の時間数をもっと増加すべきだ。その他。

C 漢字学習指導の観点から、小学校に要望したいことがありましたら、かんたんにお書きください。

B 地域でのおもな要望

- ① 筆順指導を徹底的にやってほしい。
- ② 教育漢字の読み書きを、完全に指導してほしい。
- ③ 部首など、漢字の構成についての知識を与えてほしい。その他。

◎ 回答者の教職経験年数 13.3(17.6)年 うち中学校 10.8(13.6)年

手書き

よし

タク

吉田 205

紅

ソラマツルタ

タク

ルカカブチ

110

大正新川店